

ITU第1回無線通信部門会議開催

ITU（国際電気通信連合）は、電気通信標準化部門、無線通信部門、電気通信開発部門に組織が再編されました。今回は、1993年11月にジュネーブで開催された第1回無線通信部門会議の速報をお伝えします。

きこう かずしげ
酒匂 一成

電気通信は、国内だけでなく国際間の接続も行っています。また、電波は国境に関係なく飛び交っています。したがって、各国がお互いに秩序を守って電気通信網を構築・運用し、電波を利用する必要があります。このお互いの約束を、国際電気通信条約として締結しています。国際電気通信条約は、国際連合の専門機関であるITU（国際電気通信連合）において、審議されます。

電気通信の目覚ましい発展に併せてITUの組織を変更することとなり、電気通信標準化部門、無線通信部門、電気通信開発部門に大別されました。電気通信標準化部門の第1回会合は、1993年3月に開催（本誌Vol.1 No.1参照）されました。

無線通信部門の会議は、

- ・WRC：RR（国際電気通信条約附属無線通信規則）の規定・手続きなどを議論する世界無線通信会議
- ・RA：無線通信の技術的問題を討議する無線通信総会

から構成されます。

無線通信部門の第1回会合は、1993年11月、ジュネーブにおいて開催されました。

第1回無線通信総会（RA-93：11月8日～16日）には、94カ国、18国際機関から約500名（日本から約40名）が参加し、SG（研究組織）の新設・再編など、新しい体制下での方向づけがなされました。

RAでは、FPLMTS（2000年のサービス開始を目指している世界統一の移動通信システム）の研究を中心に、移動通信に係わる議論が主流になってきています。

また、第1回世界無線通信会議（WRC-93：11月15日～19日）には、122カ国から約680名（日本から約30名）が参加し、1995年に開催されるWRC-95の議題などを討議しました。

その結果、WRC-95の議題として、

- ① RR（無線通信規則）の簡素化
- ② 移動衛星業務（MSS）導入促進のための規定の整備

などが決定されました。

移動通信サービスの発展に併せ、RA、WRCとも移動通信に関する議題が中心になってきています。移動通信に従事する者として、これら会合への対応をきちんと行っていきたいと考えます。

なお、今会合の詳細な報告は、次号に予定します。

